



## 新型コロナウイルスと人権

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。大津市では、小中学生に感染が広がっています。感染が明らかになった際には休校措置をとっていましたが、今は対象の学年を閉鎖する対応をしないと授業自体が進まない状況になっています。感染の拡大に呼応して、感染者に対する差別的な言動が増えているように感じます。これは、人権を傷つける行いというだけでなく、感染拡大を防ぎ社会経済活動を維持していくうえでも大きな障害になっています。

先日、大学ラグビー選手権で優勝した天理大学ラグビー部も、昨年の夏に集団感染を公表した際には、理不尽な非難を浴びました。多くの学生が教育実習の受け入れ先やアルバイト先から参加や出勤の見合わせを求められたそうです。同じく感染を公表した島根県の私立高校では、関係ない生徒の写真もネットに掲載され非難を浴びました。施設や企業などが感染者の出したことを明らかにするのは、接触があった人々に注意を促し、拡大を抑えるためです。しかし、公表すると激しい攻撃にさらされるとなれば、事実を隠す方向に流れ、感染経路の追跡もできなくなります。

オンライン講義を続ける大学からは「このようにパッシングされるのなら、対面授業を再開することなどとてもできない」という声も聞かれます。学校の正常化を妨げ、若者の日々の生活、そして将来にも暗い影を落としています。

天理大学のある奈良の首長は「世間さまに謝れという圧力が、私たちの心をむしばんでいく」と述べ、萩生田光一文部科学相は感染者や学校を責めないよう求めるメッセージを出しました。危険と隣り合わせて患者の治療にあたる医療従事者を、周囲から排除する動きや風評被害も続いています。年老いた両親の介護のために、感染者の多い地域からふるさとに帰った人が、帰省した事情などお構いなしに批判される事例も見られました。

大切なのは、差別や中傷を許さない姿勢を社会全体で示し、必要な手当てを講じることです。感染する可能性は誰にでもあります。感染者を責めたところで、何の安心も安全も得られません。

令和2年8月25日の朝日新聞に、次のような記事がありました。全国で唯一、新型コロナウイルスの感染者が「ゼロ」だった岩手県で、初めて感染が確認されたのは7月29日の夜でした。感染した社員のいるガス会社ではどのように発表するか、話し合いが行われました。

社員のプライバシーを守りながら、地域住民の不安を和らげるにはどうすればいいか——。最終的に、社員の感染と、顧客とは接触がなかったことなどを説明する文書をその日深夜、会社のホームページで公表しました。31日朝に一部のテレビや新聞で会社名が報じられ、パッシングの電話が相次いでかかりました。「感染者はクビにしたのか」「社員教育がなってないんじゃないか」…。同じ人から何度もかかってきたり、30分以上話し続けられたりしました。どう対応していいかわからず、ひたすら相手の話を聞いたそうです。電話を取るのが怖いと言う社員もいました。

会社では、顧客に安心してもらうため、8月1日に県内の数千世帯へ説明の文書を送りました。感染した社員は発症してから顧客との接点は一切ないこと、濃厚接触者の社員も全員陰性であることなどを記しました。土曜の休日でしたが、社員の多くが出勤して作業にあたりました。



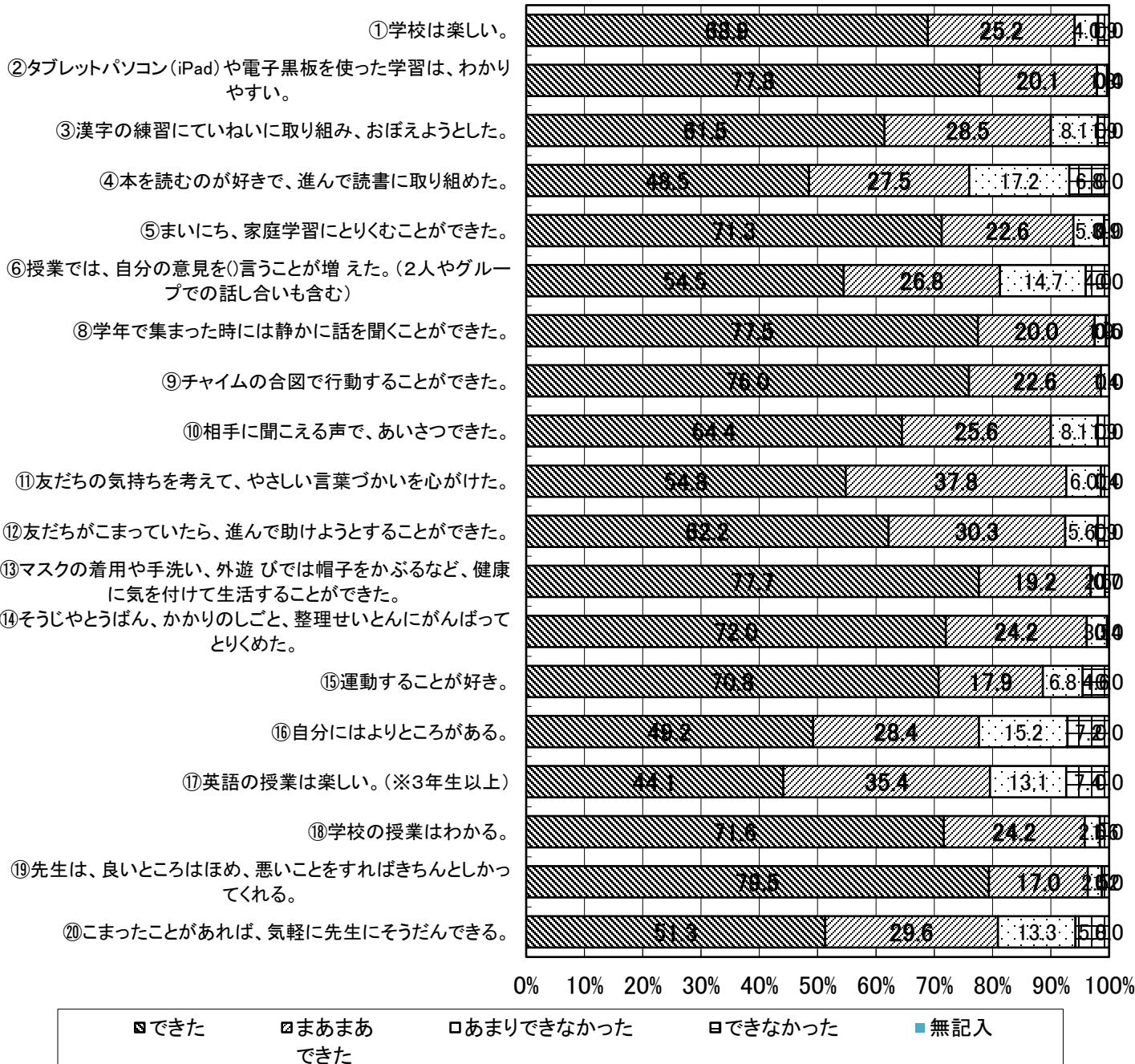
コロナに負けないぞ！！  
子ども応援プロジェクト



その2日後、営業所に匿名でアレンジメントフラワーが届きました。小ぶりな赤い花が咲いていて、添えられたカードに「勤め先に届くのは中傷の言葉ではなく、花だと思いました」と書かれていました。社員を気遣い、励ます手書きのメッセージに、社員一同は励まされ勇気づけられたそうです。その後も励ましや慰労のメッセージが次々と会社宛てに寄せられました。感染発表後に会社にきた抗議はおよそ100件でした。そして、激励するメッセージも同じく100件だったそうです。

誰もが病気に感染し命を脅かされることは厭います。その不安から、感染した人を非難したくなる気持ちも理解できます。しかし望んで病気に感染する人はいません。感染して弱っている人を非難する人は、自分自身が病気になった時のことを考えていないのです。今こそ、一人一人の人権意識と思いやりの心が試されています。できる限り感染予防を行いつつ、病気になった人を励まし労わることが草津小学校区でありたいと願っています。

## 令和2年度児童評価 2学期

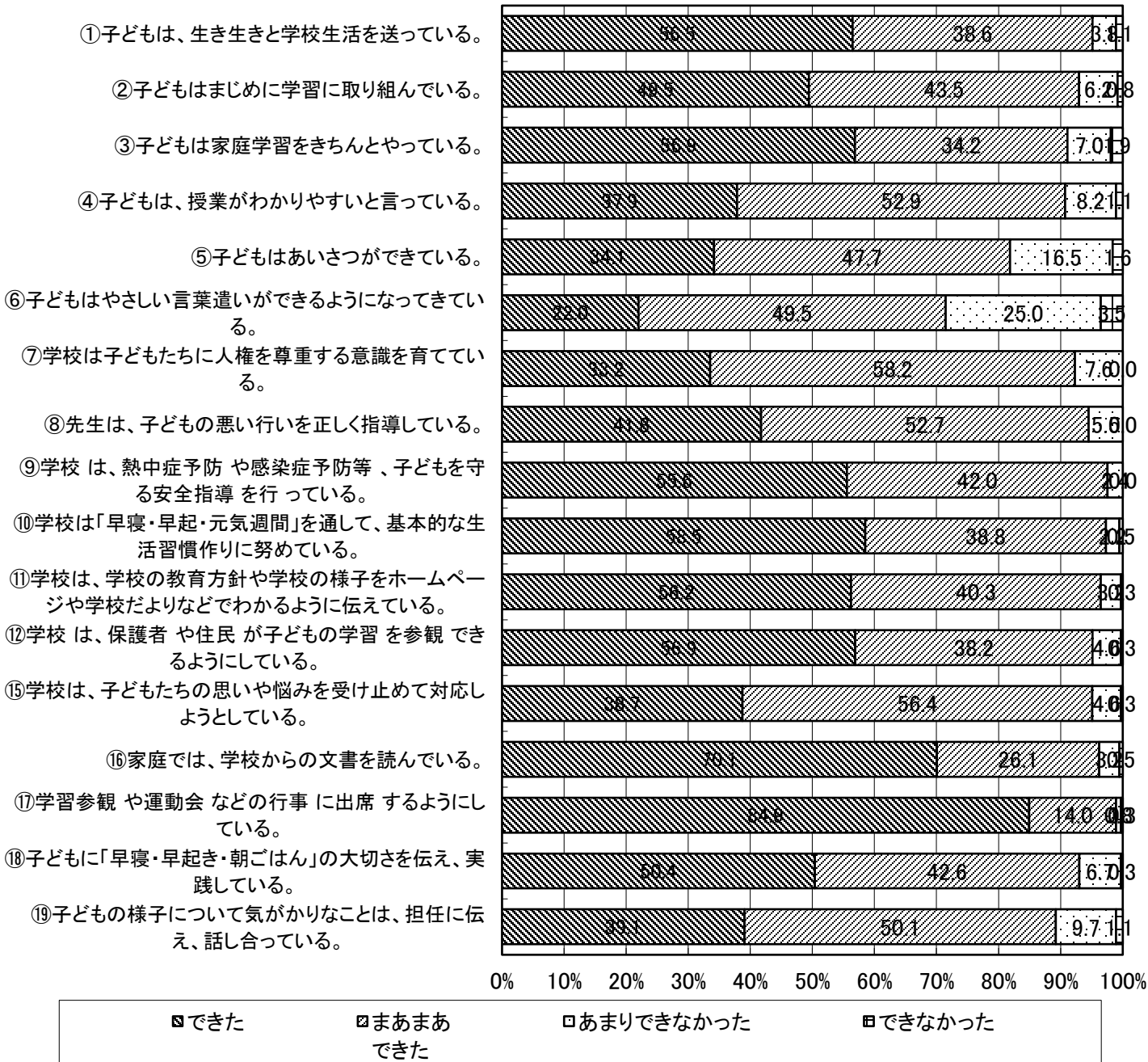


子どもたちの自己評価ら次のような成果が明らかになりました。まず、学習面では、「学校の授業がわかる」というプラス評価が95%、「毎日の家庭学習にきちんと取り組んでいる」というプラス評価が約94%と高く、まじめに学習に取り組める児童が多いことが分かります。特に、ICTを活用した学習のプラス評価が約97%、漢字の学習に根気強く取り組んでいる割合が90%と昨年よりも高い評価になっていることは学びの充実を伺える結果だと言えます。また、「チャイムを守る」「あいさつができる」マスクを着用し帽子をかぶる」「掃除をがんばる」といった規範意識や「優しい言葉遣いができる」「友だちが困っていたら助ける」といった思いやりの意識もプラス評価が90%以上になり、草津小学校が目指す「自律心のある子」「思いやりと優しさのある子」の育成が少しずつ進んでいる手応えを感じます。

課題として挙げられるのは、プラス評価が80%を切っている「自分にはよいところがある」と「英語の授業は楽しい」の2項目です。子どもたち一人一人の良さや努力を的確に見取り認め、褒めていく努力をすること、自尊心を育てていきたいと思ひます。また、英語授業の工夫と充実に力を入れていきます。

# 令和2年度 保護者の方による学校評価結果

回収率 84.9%(371件)

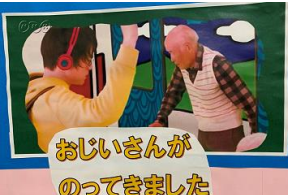
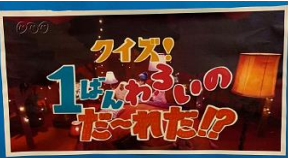


①～⑤までの中で、二項目を除いてプラス評価（できる・まあまあできる）が90%を超えています。特に①の「学校生活を生き生きと送っている」③「家庭学習をきちんとやっている」の2項目は「できた」という評価が50%を超える高い評価をいただいています。また「まじめに学習に取り組んでいる」という項目でも、肯定的な評価が93%と高い評価でした。

プラス評価が90%に届かなかった評価項目は、昨年度と同様、子どもたちの「あいさつ」と「やさしい言葉遣いができる」でした。子どもたちの自己評価を見ると努力はしていることが分かるので、学校以外の場所でもあいさつや言葉遣いに気配りができるよう、粘り強く指導を続けていきます。

昨年度、学校の課題としていた、⑱の「子どもの様子について気がかりなことは、担任に伝え、話し合っている。」が85.4%から90%近くに改善したのは成果だと感じています。また、⑮の「学校は子どもたちの思いや悩みを受け止めて対応しようとしている。」の項目のプラス評価も昨年度90.5%から約95%とさらに改善しています。今後も子どもたちの日々の悩みや困りごとによりしっかりと対応しつつ、保護者の方との連携をさらに密にしていきたいと考えています。





1月12日(火)、「クイズ!一番悪いのはだーれだ?」と題した友だちの日を行いました。今回の学習のねらいは「決めつけしないで、お互いにもっとわかり合おう」です。学校生活の中で、仲良くしたり信頼し合ったりして生活するために、お互いの良さを見つけようとする事ができるようになってほしいという願いをこめた学習です。

学習の最初に動画を視聴しました。電車の優先席に座っていたおじさんが、おじいさんに席を譲ろうと立ち上がった時、近くに立っていたお兄さんが座ってしまいます。それを見て、席を譲ったおじさんは腹を立て、平気で座っているお兄さんやお姉さんを叱ります。でも実は、お兄さんは腰が痛くて我慢できずに座ったのでした。お姉さんは、お腹に赤ちゃんがいるので、席を替わることができませんでした。また、叱ってしまったおじさんも、自分の父親が辛そうにたっていたことを思い出して、声を荒げてしまいました。

このように、人は見た目だけではわからないところがたくさんあることを知り、お互いを決めつけず分かり合う努力をすることが大切だということに焦点化します。その後、

- ① みんなに知ってほしい本当の自分を紙に書く。
- ② 先生に提出する。
- ③ 先生が読み上げて誰のことかを当てる。

という活動を行いました。学習の最後には、振り返りを書いて学んだことをまとめました。友だちの知らなかった一面を知って、驚いたり見直したりした児童がたくさんいました。人のある面だけを見て判断するのではなく、良いところ、素敵などころを見つけられる仲間づくりを進めていこうと思います。



## 中学校の出前授業・6年生



1月13日(水)の1時間目、6年生を対象に草津中学校の先生による出前授業を行いました。中学校に入学する前に中学校の授業を体験し、学校生活の見通しを持つことを目的にした取組です。1組は理科室で西村章先生から理科の授業を受けました。既習の酸素と二酸化炭素に関する課題から、グループで意見を出し合い、実験を行いました。今まで思い込んでいた知識が間違いだったことに気づき「へえ〜。」と驚く声が上がっていました。中学校での理科の学習が楽しみになってきたという感想が聞かれました。2組は教室で丸山京子先生から数学の授業を受けました。規則的にならんだ石を数えるのに、いろいろな式を考えました。最後は大きな数を式を使って解けるか、グループで協力しながら考えていました。数学のおもしろさや楽しさを実感し、友達と学び合う醍醐味が味わえた授業でした。3組は体育館でボールを使った運動を折井重之先生に教えていただきました。一人技から2人技、最後はクラス全員で輪になってボールをキャッチ!運動技能の上達だけでなく、クラスの仲間も深まるような活動でした。どのクラスも初めての中学校の先生からの授業に緊張しながらも、一生懸命、しかも楽しみながら参加していました。「中学校の先生が意外に優しくて安心した」「教え方が分かりやすい」といった前向きな感想がたくさん持てたことが有意義でした。中学校が少し身近に感じる日となったのではないのでしょうか。

## 大切なお知らせ

## 草津市就学援助費給付制度の紹介

草津市では、小・中学校に在籍するお子さんがおられる家庭で、経済的な理由により就学に必要な経費の負担にお困りの保護者の方に、学用品費の一部や学校給食費等を給付する就学援助費給付制度を実施しています。受給を希望される場合は、申請書に必要事項を記入し、学校まで提出してください。なお、受給要件に該当しない場合は認定できませんのでご承知ください。

申請書や制度の説明につきましては、学校または草津市役所学校教育課(6階)でお渡ししますので、お問い合わせください。